

七窪地区 液状化対策に関する住民説明会

日時：令和8年7月1日（水）

19：00～20：30

場所：七窪公民館

●参加者 53名

<質疑応答>

① 旧県道より東側でボーリング調査を実施していない理由は何か。

【回答】

東側地域には既存の調査データが存在しており、今回調査の17箇所は、データが不足している箇所を補完する目的で実施した。

② 集排水管で集めた水の排出先はどこか。

【回答】

宇ノ気川または旧宇ノ気川へポンプ排水する予定。騒音等の影響についても、民家との位置関係を含め詳細設計で検討する。

③ 井戸水が枯渇した場合の対応について。

【回答】

本事業が原因で枯渇した場合、飲用井戸は補償対象、農業散水用の井戸は対象外となる予定。

④ 地盤改良工法の実施について。

【回答】

検討委員会で、七窪地区には地下水位低下工法が最適と選定されたため実施しない。個別に地盤改良を行う方に向けて補助制度を案内しているため、そちらを活用して欲しい。

⑤ 地下水位低下工法による地盤沈下の懸念について。

【回答】

大崎地区の実証実験にて地盤沈下量を検証中である。次回説明会で検証結果を報告し、今後の事業実施について住民との合意形成を図る。

⑥ 道路災害におけるＬ型擁壁の復旧時期は。

【回答】

液状化対策エリアの決定後、対策工事に続いて復旧を行う予定。

⑦ 既存の埋設管を考慮した集水管の設置位置と延長について。

【回答】

平面的な集水管の設置位置は、今後の詳細設計において調査・決定する。なお、道路路面下 3.5m の深さに、延長 800m を設置する予定。

⑧ 集水管の耐用年数約 30 年経過後のポンプ停止による影響について。

【回答】

ポンプを停止した場合、対策前の状態に戻る。集水管の更新は未定のため、今後の家屋建て替え時等には、各自での地盤改良による対応をお願いしたい。

⑨ 集排水管施工後の地下水位低下の確認について。

【回答】

集水管の周辺に水位観測孔を設け、一定期間水位の確認を行う予定。

⑩ 本説明会の議事録の公開について。

【回答】

質疑応答の要点を Q&A 形式にまとめ、かほく市ホームページにて公開する。

⑪ 先行して実施されている粟ヶ崎地区の集排水管工事事例の活用について。

【回答】

金沢市および内灘町と連携してデータ等を共有・確認しており、検討委員会においてもそれらを踏まえて検討を行っている。

⑫ 水路周辺の 30m 範囲における被害拡大と、水路の水抜き穴との関係性について。

【回答】

水路により局所的に土中の含水量が増加した可能性は否定できない。ただし、水抜き穴はコンクリート壁を保護する目的のものであり、壁が倒壊しなかったことから、一定の機能・効果を発揮したと考えられる。

⑬ 七窪地区の過去の地形（窪地や沼地、複数の水脈等）を踏まえ、旧県道への集水管 1 列の設置のみで、十分な効果が得られるのか。

【回答】

過去の地形情報は把握しており、検討委員会において複数の配置パターンを検証した結果として、今回の設置位置が最適として導き出された。

⑭ 降雨による地下水位変動への影響の確認状況について。

【回答】

現在調査済みであるのは 11 月と冬期の地下水位データのみであるため、今後、検討委員会からの指示に基づき、梅雨時期のデータを取得して確認を行う予定。

⑮ 水路（旧宇ノ気川）の深さが集排水管の埋設予定深さ 3.5m より深い場合、旧県道に設置しても集水効果が得られないのではないか。

【回答】

道路面からの水路の深さは約 2m、底版コンクリートを含めても約 2.5m 程度と判断している。そのため、旧県道へ集排水管を設置しても機能上問題はないとの検討結果である。

⑯ 集排水管の目詰まりによる集水量低下等の確認方法について。

【回答】

維持管理については、ポンプの稼働率等から目詰まりの状況を判断する。参考として、熊本市の事例では 5 年に 1 回の頻度で管内清掃を実施している。なお、維持管理費については国費の補助を要望中であり、住民への費用負担は生じない。

⑰ 事業完了までの具体的なスケジュールの公表について。

【回答】

現状では事業範囲が未定であるため、スケジュールの提示は困難である。今後、液状化対策エリアに関する要望等がまとまった段階で、スケジュールを組み直し提示する予定。

⑪ 前回の住民説明会から約１年が経過しているが、開催頻度を四半期に１回程度に増やしてはどうか。

【回答】

今回は、提示可能な資料や決定事項が揃うまでに時間を要した。次回説明会は検討委員会終了後の秋頃を予定しており、今後も事業の進捗状況に合わせて随時開催していく方針である。

以上